

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立第三吾嬬小学校
校長名	高橋 伸一

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・ 令和 7 年度は標準スコア 50.0 以下の教科が 8 教科だったが、今年度は 6 教科と全体として回復傾向にある。 ・ 3 年・5 年・6 年は全教科で令和 7 年度より標準スコアを上げている。 ・ 特に算数は 3 年 50.3→52.3、5 年 51.7→53.8、6 年 48.9→50.7 と標準スコアが上がっている。	・ 2・4 年は全教科で標準スコア 50.0 以下の結果となった。 ・ 特に 4 年の国語は標準スコア 46.7、理科 47.0、2 年の算数 46.7 と標準スコア 50.0 から大きく下回っている。 ・ 4 年の国語の「知識・技能」の観点では全国平均正答率から 10 ポイント近く下回り、前年度の知識が定着していない。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・ 「好きな教科や授業がある」の肯定率は 85% を超えている。 ・ 「学校で学んだことは将来、社会に出たときに役立つと思いますか？」の肯定率は 90% を超えている。	・ 「テストでまちがえた問題は、あとでやり直しをしていますか」の設問は 20% 程度の児童が取り組めていない。 ・ 学校以外の勉強時間の設問において、まったくしないと答えた児童が 15% 程度いる。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・ 全国学力学習状況調査では、算数の 2 観点とも全国平均正答率を上回った。 ・ 算数の 5 領域中 3 領域で平均正答率が東京都の平均正答率を上回っている。記述式においては 4.8 ポイント高い。	・ 国語においては、思考・判断・表現で全国平均正答率を下回った。・ 国語においては、思考・判断・表現で全国平均正答率を下回った。 ・ 「国語の授業の内容はよくわかりますか。」の質問の肯定的な回答は 65% 程度と全国平均より 15% 程度低い。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎・基本となる力を身に付けることができる授業改善・家庭学習改革

- ・児童がその学年の基礎・基本となる学習内容を身に付けることができるように、児童が「わかる」「できる」授業を行う。
- ・授業時間内には、習熟の時間を確保し学習した内容を自分の力で問題を解くことができるようにする。
- ・学校で学習したことを定着させるために家庭学習を確実にを行う習慣をつけさせる。
- ・単元の週末の「単元テスト」では目標を設定し、目標点数が取れない児童には「直し」「復習」「再テスト」などに取り組みせ、学習内容を定着させるようにする。

(2) データに基づく指導改善と個別最適化の徹底

- ・学習状況調査や日々の評価とともに、単元時間ごとに「ワークテスト」等を活用したチェックを行い、学年・教科ごとの課題やつまずきを特定し、改善策を迅速に学習時間へ反映する。
- ・Web 支援システムや「ふりかえりシート」「ミライシード」などの ICT 教材を活用し、児童一人一人の課題や習熟度に応じた個別・反復学習を充実させる。
- ・学習支援指導員や SST を低・中・高学年別に重点配置し、D 層・E 層の児童には個別支援や担任・支援員との連携を徹底する。
- ・算数科においては、時間講師を活用し、3～6 年の習熟度別コースを 5 展開とし、D 層・E 層の児童へのきめ細やかな指導を実現させる。

(3) 校内外のリソース活用と組織的な学力向上マネジメント

- ・「学力向上委員会」を中心に、校内の教職員で課題分析と指導方法の共有を定期的に行い、全体で効果的な支援策を展開する。
- ・Teams などの ICT を活用し、学力向上のための実践例や教材、外部からの有用な情報を全教職員へタイムリーに共有する。
- ・必要に応じて校外リソース（すみだ教育研究所等）からの教材を活用し、学校全体で多角的に児童の学習をサポートする。
- ・D 層児童を対象にした「放課後すみだ塾」では、各学年の学力向上委員を中心に適切な学習課題を選定して学習に取り組ませることで、基礎的・基本的事項を定着させるとともに、担任と SST が連携して学習意欲の向上を図る。

3 「令和 9 年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・全ての教科を全国平均正答率以上にする。
- ・観点別正答率での全国平均正答率を全教科で上回る。

- ・令和 8 年度は、全国平均正答率以下の教科が全体で 6 教科となり、2 年と 4 年で全教科が基準未達成の状況が続いた。特に 2 年生の国語・算数については、これからの学校生活の基礎・基本となる 1 年生の学習内容が定着していないことに危機感を感じる。学習規律を整え、課題に自ら真面目に取り組むことや、家庭学習に継続して取り組むことなどを価値付け、子どもたちの学習に向かう意欲を高めたい。また、定期的な学習内容の定着の確認を行い、早期に学習が定着していない児童への支援を行えるようにする。4 年生については、学力テストを実施した教科全て全国平均正答率以下となった。課題を明確にし、課題解決に必要な知識や技能が定着するようにしていきたい。また、子どもたちに目標をもって学習に取り組む習慣をつけさせ、全教科で全国平均正答率以上の達成を目指す。
- ・観点別の正答率では 34 観点中標準スコア 50.0 以下の観点は、14 観点で 2 年生 4 観点、4 年生 8 観点、6 年生 2 観点となっている。例年高学年の理科に関しては標準スコア 50.0 以下となる観点があるため、単元を一つずつ確実に指導し、理解の状況や知識の定着状況を確認し、児童の力を高めていきたい。